一般社団法人日本統合医療学会(IMJ)　11/10/24発行

IMJ NEWS LETTER

発行:一般社団法人 日本統合医療学会 本部 〒113-0023 東京都文京区向丘1-6-2 Email：info@imj.or.jp FAX：03-3812-5167

小宮山厚生労働大臣と面会

去る、10月3日（月）、渥美理事長、仁田副理事長、川嶋みどり理事が厚生労働省に小宮山洋子厚生労働大臣を訪ねました。

長年に亘り「民主党統合医療議連」にも関わっておられ、予てより「統合医療」に対して深いご理解を示して下さる小宮山洋子氏が「統合医療検討会（仮称）」の新設をご決断下さった細川律夫前大臣の後任として厚生労働大臣にご就任されたことは㈳日本統合医療学会を始め、統合医療の推進に微力を尽くす各団体関係者、延いてはその利用者にとっても誠に喜ばしいことであり、小宮山大臣のご活躍に大いに期待を寄せています。

「統合医療」の抱える最も大きな課題の一つとして挙げられるのが提供する側の「質の問題」です。人の命や健康に直接関係するからには必要充分な教育を受けた後に厳正なる資格試験や審査を経た上でサービスの提供を行わなければなりません。

しかし、現実には必ずしも十分な配慮がなされていないというのが実態です。そうした状況を含めわが国における統合医療の実態を明らかにすべく、昨年度（平成22年度）に実施されたのが渥美理事長がスーパーバイザー的役割を担った「統合医療プロジェクトチーム（福井次也代表）」による調査研究です。

既に調査結果は部門ごとの分担研究者

によってまとめられ、一冊の報告書として厚生労働省に提出されており、それを受ける形で「統合医療プロジェクトチーム」が発展的改組を経て「統合医療検討会（仮称）」として本年度中に新設されることが決定されました。（細川前大臣サイドからの情報提供）

この度の訪問では、小宮山大臣に「統合医療」の国内外の実態と日本として進むべき方向性に関して改めてご説明申し上げると共に「統合医療検討会（仮称）」の速やかな設置に向けたご尽力をお願いしました。（先日、近々に第一回目となる会合を開催するとの連絡が小宮山大臣サイドからもたらされました。）

併せて、震災直後から当学会や関連団体が現在に至るまで継続的に行っている、東日本大震災被災者、及び支援者に対する「統合医療」を用いた支援活動に関しても説明し、厚生労働省としての本活動に対するご理解と更なるご支援を改めて要請しました。

先の震災から7か月を経て、当たり前のことですが“一人”で出来る事の限界が明らかになると共に、真のチーム医療、全人的医療を目指す「統合医療」の必要性が改めて認識されるようになりました。

被災者の皆さんから話を伺うと、ライフラインの全く途絶えた被災地の医療現場で実際に“ファーストエイド”として最も被災者を勇気づけたものの一つが医師や看護師が患者に対して声をかけたり、更には被災者同士が互いに声をかけ合って励まし合う「人と人との触れ合い」であったのだそうです。

㈳日本統合医療学会は、この「人と人との触れ合い」を大切にしながら、次世代の医療システムである「統合医療」の更なる普及、発展に向けた活動を展開して参りたいと考えております。

平成23年10月20日

【文責：㈳日本統合医療学会事務局】